

1、大阪は日本の古都？

古墳時代の大阪

日本の古都といえば奈良・京都・鎌倉と指を折るが、「大阪も古都」ではないのだろうか。

近頃、大阪を歩くようになって「大阪は古都だ」と思うようになってきた。新発掘もあるようだ。

その1、日本神話の神武(イワレビコ)が昔の九州から大阪へ来て戦った所は？

その地は今の東大阪と想定されており、神武を破り、神武の兄(イツセ)に致命傷を与えて敗走させた勢力(ナガスネビコ)の根拠地があったと考えられる。

その地は、当時の地形から『白肩の津』(東大阪)と想定されている。



その2、思わぬ形で皇位に就いた仁徳(オホサザキ 257~399)は、難波高津宮に皇居を作るが、この跡地に蓮如上人の「石山本願寺」が出来て都を凌ぐ隆盛の地となる。これを狙った信長が攻め、後を継いだ秀吉が大掛かりに城を建てて街づくりをしたため、仁徳帝が政治改革を号令した難波高津宮の皇居は消し去られてしまった。

その3、仁徳帝の後、悪逆と称された武烈帝には継承者がおらず、歴史が曖昧になるが、北陸方面から出て帝位についた継体帝の皇居は、今の「新大阪」近くにあったらしい。彼は枚方など、淀川の北をいくつか逡巡したあと、大和へ入ったと言われる。

その4、大化改新で即位し、難波長柄豊碇宮に皇居を造営したのは孝徳天皇で、白雉3年(652)と記録されている。奈良時代の平城宮遷都(710)より古いことである。

その後の天平16年(744)には聖武天皇が難波の地に遷都をして来る。聖武帝といえば東大寺大仏が有名だが、彼を悩ませることが多かったらしく、恭仁宮、紫香楽宮、平城宮と何度も宮移りし、その度に新都建設を命じて民を苦しめている。

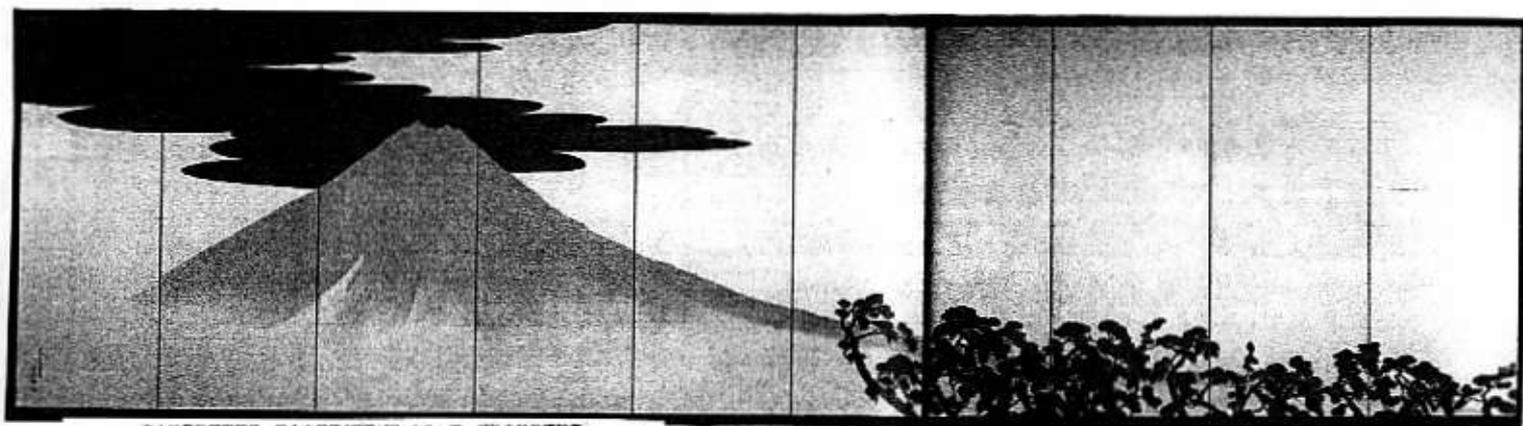
その5、秀吉が築いた大阪城は事実上首都の役目を果たしていたが、皇居が京都にあったので都とは言わないらしい。(江戸も同じことなら、鎌倉も古都ではない)

秀吉の大阪城は大阪夏の陣で焼かれ、天災にも逢い、江戸幕府が作り替えるが、明治になって兵営も作られ古い遺構はほとんど失われてしまった。現在の大阪城は大阪市民によるコンクリート造りである。(天守閣地下に豊臣時代の遺構が発見されている)

大阪は古都と言ってよいと思う。

祝

富士山・三保松原 世界遺産登録



富士三保松原図屏風 円山応挙画(天明4年) 六曲一屏 (財)白鶴美術館蔵

※ 富士山の写真(三保の松原を含む)が欲しい。

2、平群人と秦氏

拙宅のある斑鳩町の西隣りを「平群(ヘグリ)町」と言う。大阪府と分ける生駒山脈の東にあって、竜田川に沿った細長い町、北側は生駒市である。「ヘグリ」も「イコマ」も古語で「隅の土地」という意味だそうだから、広義には同じ地域であろう。

応神14(283)年のこと。朝鮮半島の弓月君(ゆつきのきみ)の人達が、大和へやってきて「大和に住みたい。ついては途中で奪われた同族人を取り返すのに力を貸して欲しい」と依頼した。これに応じて半島に渡り、朝鮮人100余人を助け出したのが平群氏一族であり、この争奪のことは朝鮮史にも記載があるという。

平群氏は古事記に見える伝承的武将の武内宿禰の子孫で、初代の平群木菟(ずく)は仁徳天皇に仕えた大臣。二代目真鳥(まとり)、三代目鮪(しび)、聖徳太子軍の副将軍神手(かみて)、倭舞の名手・広足、遣唐使になった広成など、古代史に残る名前がある。

助け出された朝鮮の人達が帰化して住んだのが生駒山の西側。彼らは進んだ知識と技能で農業を改良し、大和川などの河川を補修して土地を広げ、土手を築き(当時の)大阪入江を干拓して今日の大阪平野を切り開いたと言われる。その土木力が凝縮されたのが古墳であり、日本第二の応神天皇陵・日本最大といわれる仁徳天皇陵なども、彼らによって造築されたらしい。

この人達は、後に「秦(ハタ)」を名乗ることがあり、聖徳太子に仕えた秦河勝(はたのかかつ)が有名だが、似た「旗」「畑」「端」「羽田」「波多」などの名字で活躍する人は現代にも多く、四天王寺に伝わる伝統音楽従事の伶人にも秦氏の子孫が多く従事しているという。東儀氏など。

生駒山麓には現代でも50以上の朝鮮寺が信仰を集めている。



旧友に誘われて舞鶴へ行った帰り、電車の故障に遭い予定を変更して母校(高校)へ寄ってみた。以前、門の前を通過することはあったが、中へ入るのは半世紀ぶりである。

突然だったのに副校長先生に招き入れられ、その昔は生徒会室だったかな?と思われる応接室でお話を伺い、校舎を見せて頂きグラウンドも見渡した。

先生から「昔の寄宿舎生活のことを文にしてほしい」とのご依頼があり「旧友たちとも相談してみましよう」と申し上げたが、「この学校は将来、どうするのが良いでしょう」との質問には困ってしまった。

その昔、私は家庭事情から一人でここへ転校して来たのだが、ここは宗教を母体にした教育施設で、戦後の教育制度改定により高等学校となったのに、生徒数僅か100名程。私の学年は20名くらいだったから「廃校にすべき」との意見が強かったと言われる。

学校長が頑張って商業科を作り、部活動で甲子園や花園ラグビー場を狙わせるなどして生徒数を増やし、自動車科も出来て特色ある学校に成長した。

その後、「特別進学科」を設置して1000名を越す学校に成長したが、それで満足しておられず、近い将来にはもっと希望者が集まる学校にしなければ成らないのだと言う。

素人の私が答えられる筈もないが、希望的意見程度は申し上げるのがご案内頂いたお礼にもなるかと考え、少し記させて頂く。

近頃、高校生を見て思うのは、例の「ケータイ」なるものの熱中している姿で、「自分しか居らず」一緒に友人とも話さず、一人で操作し、誰がいても気が付かない風。この「見ず・聞かず・話さず・無関心」の態度は若さの魅力に欠けると思う。

これらが全ての高校生の姿だとは思わないし、社会傾向もあろうが、一般的に言って、もっと「人と人との間の関係を豊かにしてほしい」と思う。

「人を大切にする場面」は極めて多く、介護・養護・保護・愛護・救護など「護」の付く実践活動や「暖かみのある、ユーモア溢れる社会作りへの人材養成」へ繋げる活動は多様にある。兎角、人情希薄や実力主義、個人主義が横行すると、力のない弱い者ほど不幸になる。これを当然とする利己的エゴ社会であってはなるまいと思う。

『禪』は難しいと言われるが、「随所に主となること」は理屈ではなく、平易でなければならず、『大自在』『活人剣』といった生き方も数多く示されているのだから、禪門の高等学校として「人間実践を高め、社会活動体験を深める」ことは重要なことと思う。そうした人間味を特色とする高校であって欲しいと願っておく。如何か?

奈良の俳句と川柳

奉行様 偲ぶ佐保川 濃き葉陰
 振れつつ 散り行く椿 傳香寺
 唄いつつ集う金魚や 若葉堀
 五月風 棚・棚・棚田に白い雲
 筍の埴輪めいたる古墳かな
 葛城の不動の清水 河鹿鳴く
 櫛羅滝 足浸け山椒魚になる
 奈良墨の匂う間口や 夏のれん
 俺の顔 珍しいかやホトトギス
 カッコウがホラ鳴いたヨと 生駒道
 やな国ね 「山が笑って」「海怒る」
 マサコはん うちのオカンを見習いな
 富士があり 三保もあります奈良の風呂

六月 銭湯会話

「今年は阪神 優勝でッセ！優勝！！」
 「ホンマカイナ？ 毎年アンの
 予想は狂いまっしょろが！」
 「何ガイナ？！」
 「春は優勝言ウテモ、夏は4位ほど
 秋にはビリになりまんがな！」
 「勝っても負けても『六甲おろし』や
 飲んで騒げばエエノンヤ！」
 「道頓堀へ飛び込みなハるか？」
 「アツタリ前デッサロ！！！」
 「年寄りの冷や水！ 冷や水！」
 「なーにマーンダ若こうオッセ！」



〔追記〕

どうやら先月号を読んでくれたらしく、急に町角に「うなぎ」の看板が出てきた。
 『380円』は安い。泥鰌ではあるまいナ？ 『680円』『880円』などもあるデエ
 「アナゴ」や「鰻もどき」ではあるまいナ？ 「土用鰻」の競技会でもしとるんかいナ？
 大阪上本町に『3、200円』とあったが、ワイは天王寺で『1、200円』を頂く。
 江戸風というより関西風ですな。 「味は？」 「ウナウナ・ムニャムニャ」